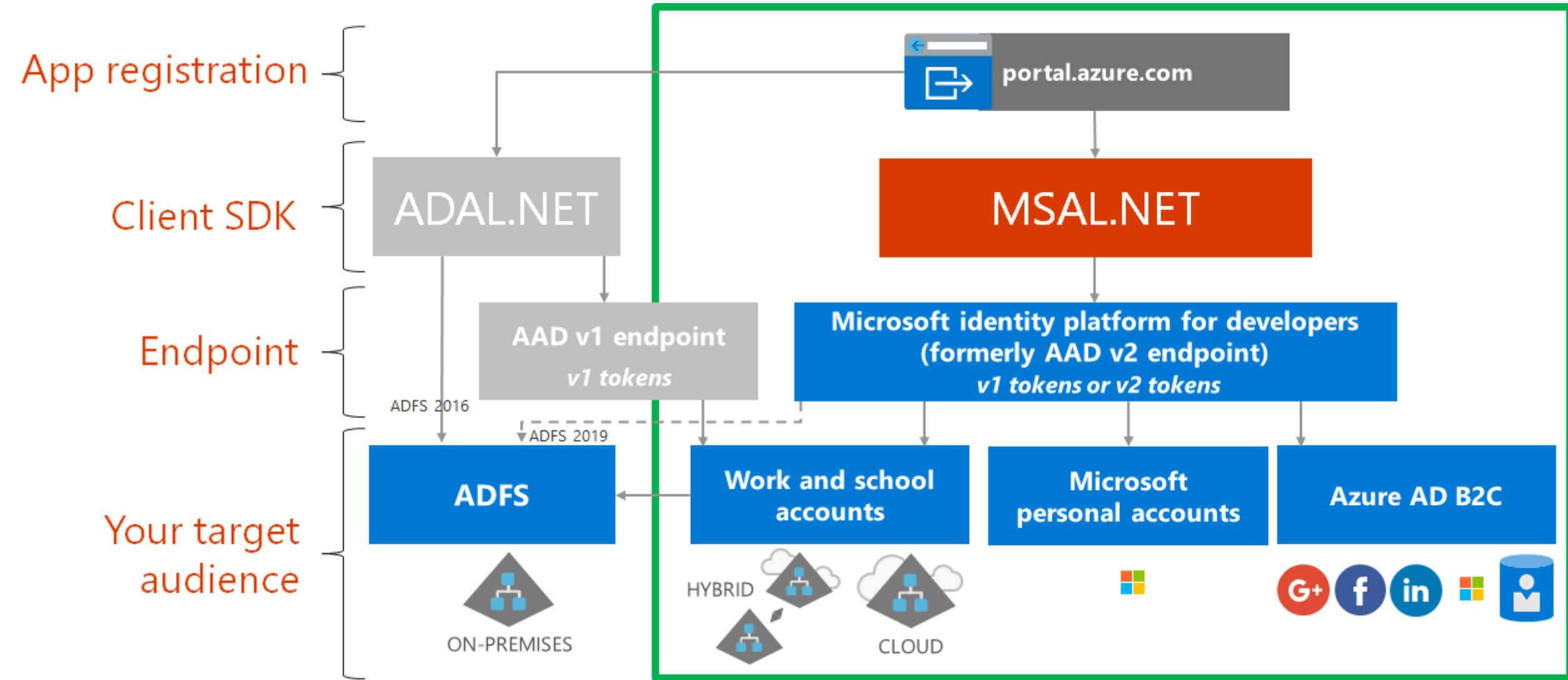
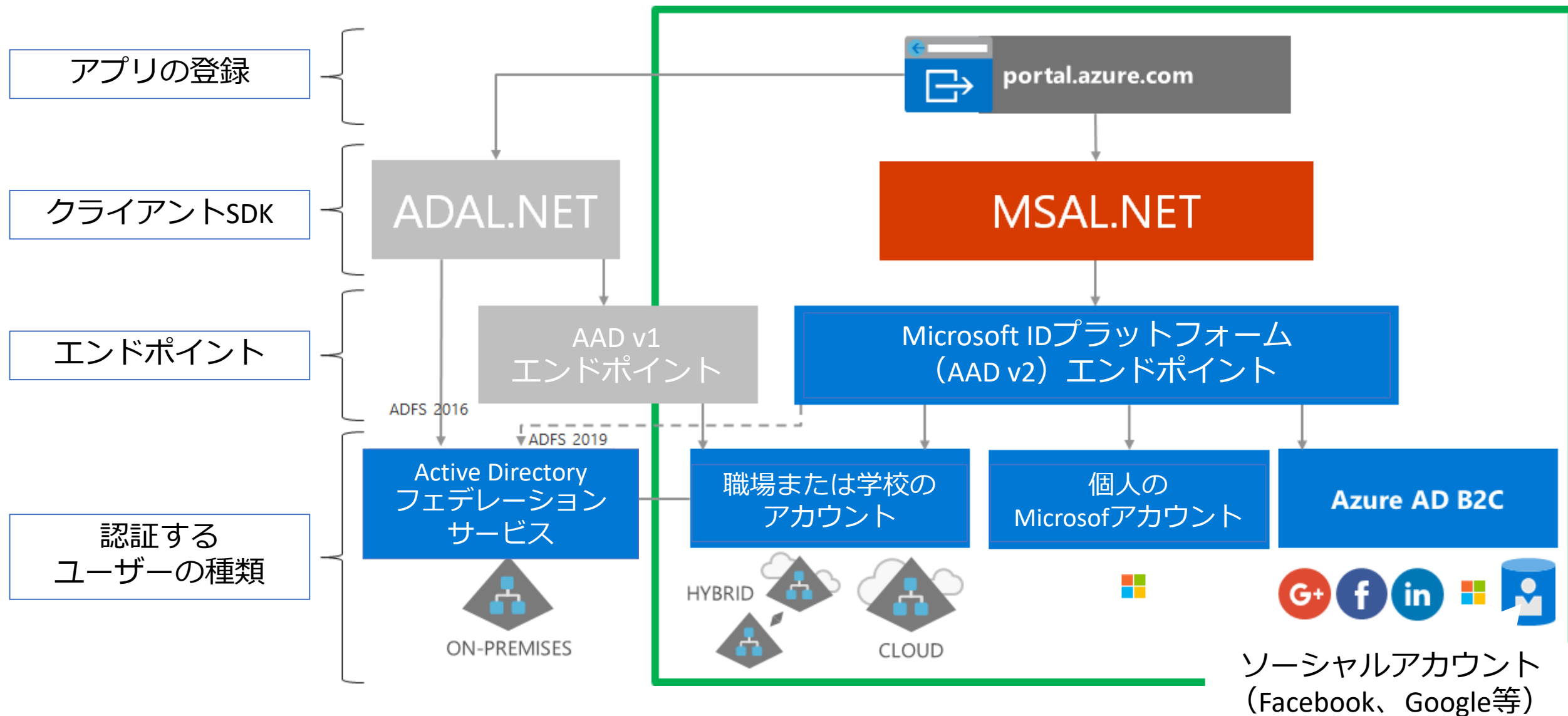


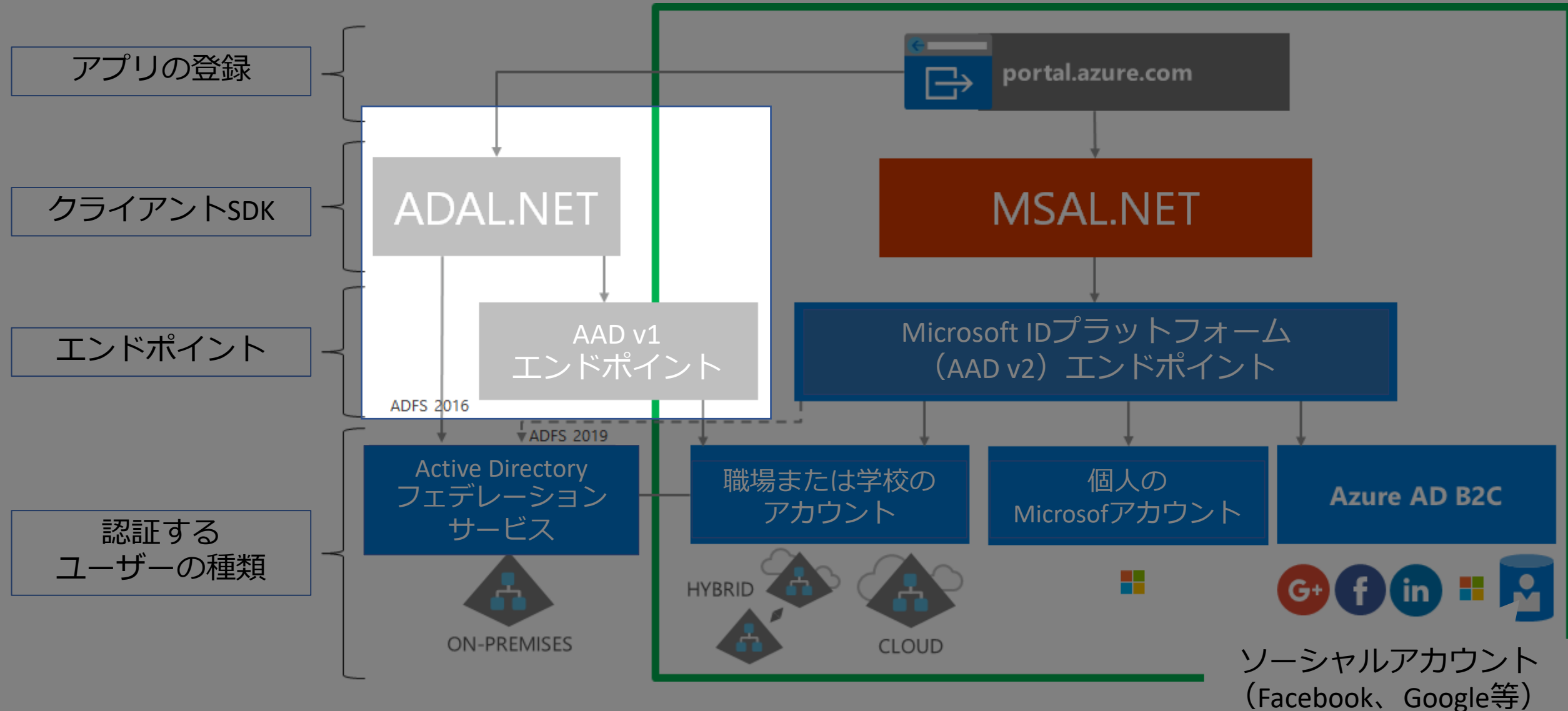
開発者は、アプリに「MSAL」を組み込み、Azure ADにアプリを登録することで、さまざまな方法でユーザー認証を行い、アプリにアクセスしてもらうことができます。



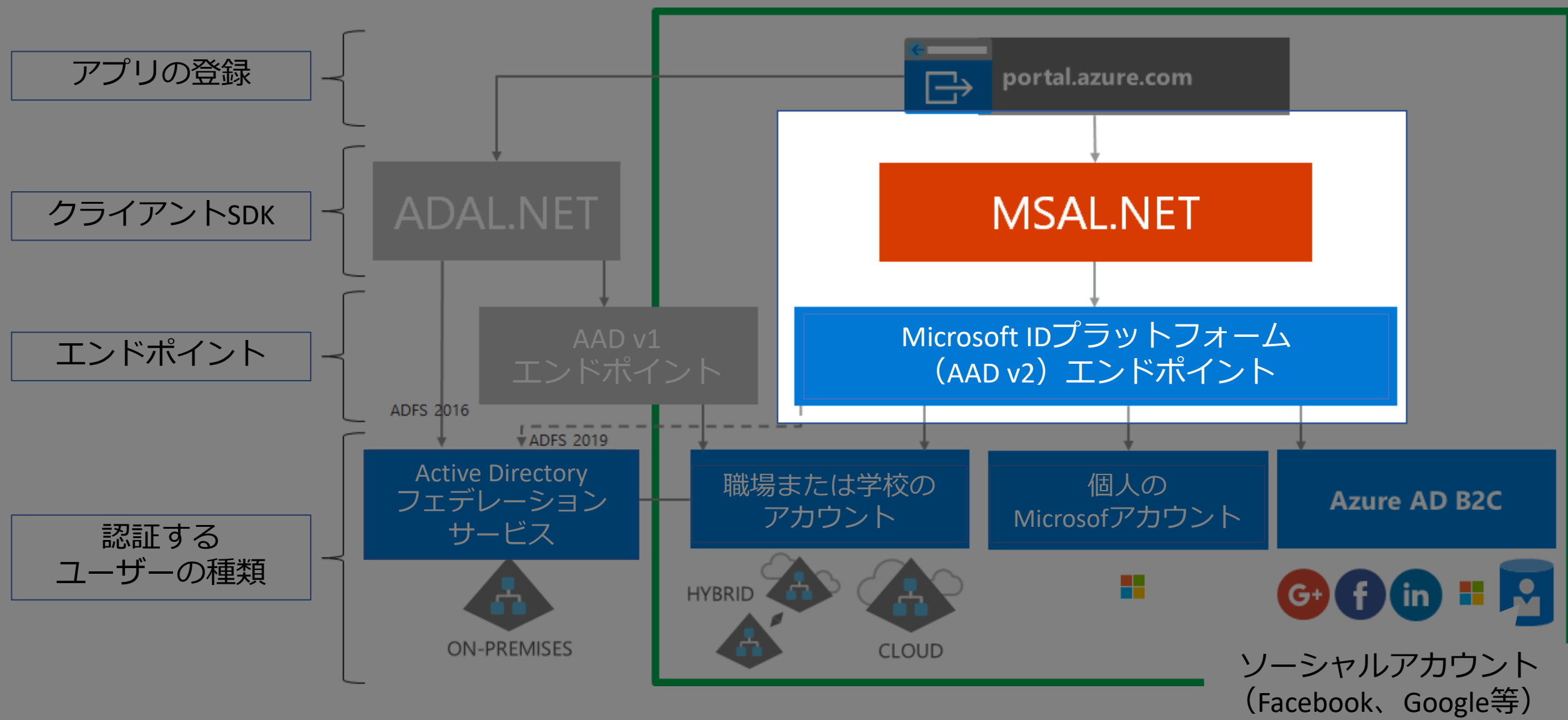
(参考訳)



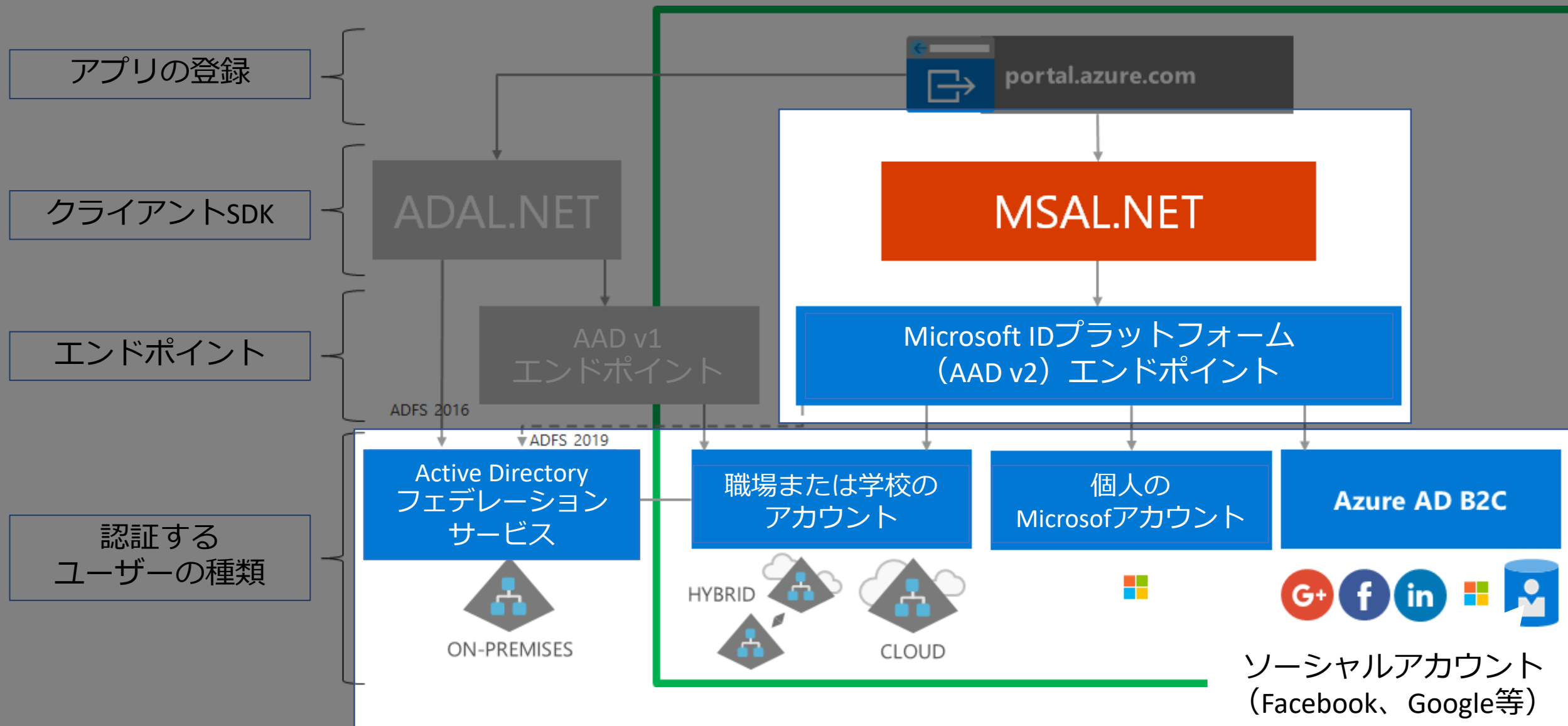
ADALと「AAD v1エンドポイント」は、以前のバージョンのライブラリとエンドポイントです



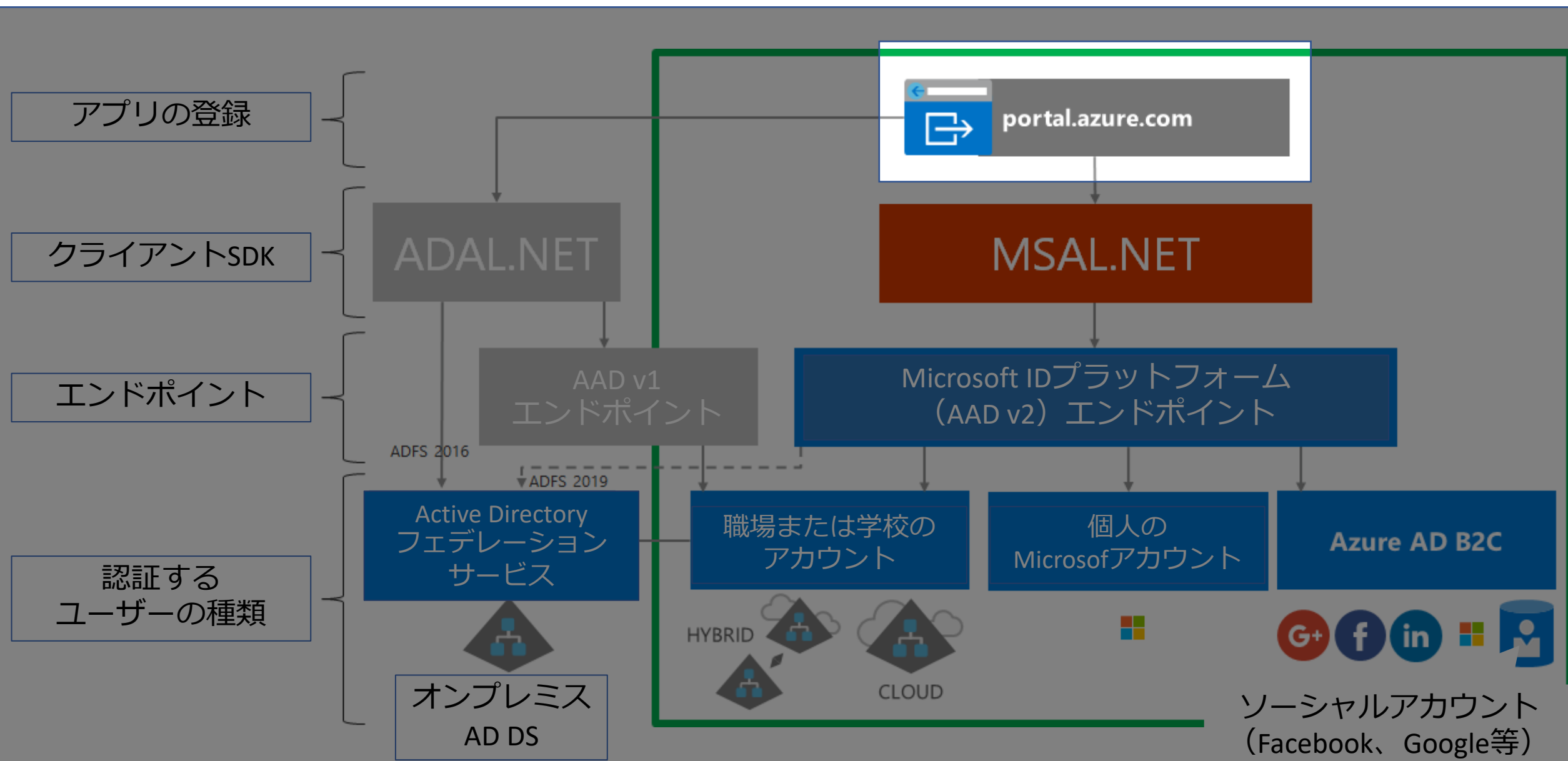
現在は、より新しい「MSAL」と「Microsoft IDプラットフォーム」の使用が推奨されています



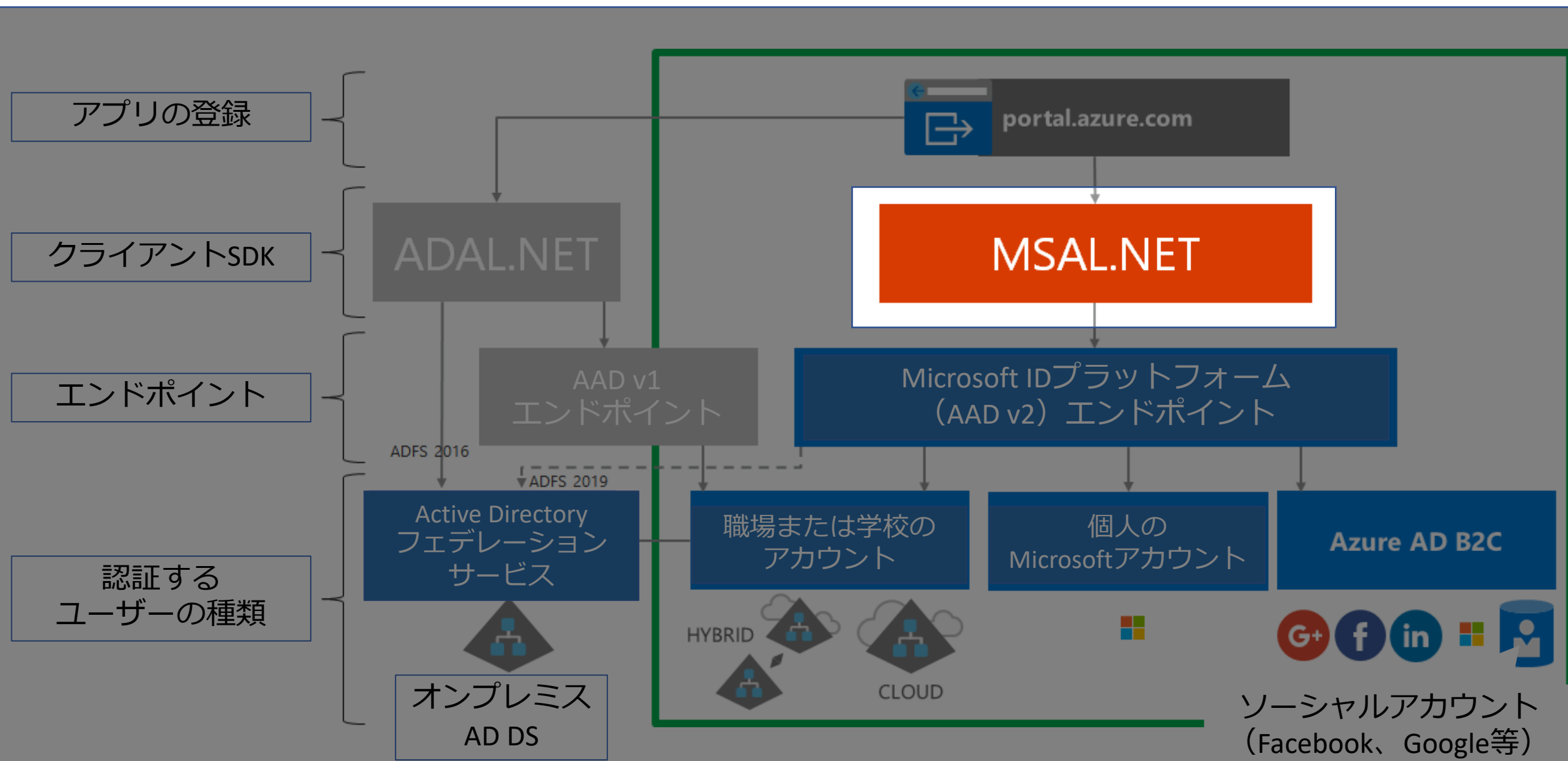
「MSAL」と「Microsoft IDプラットフォーム」は、より多くの種類のユーザー認証に対応しています



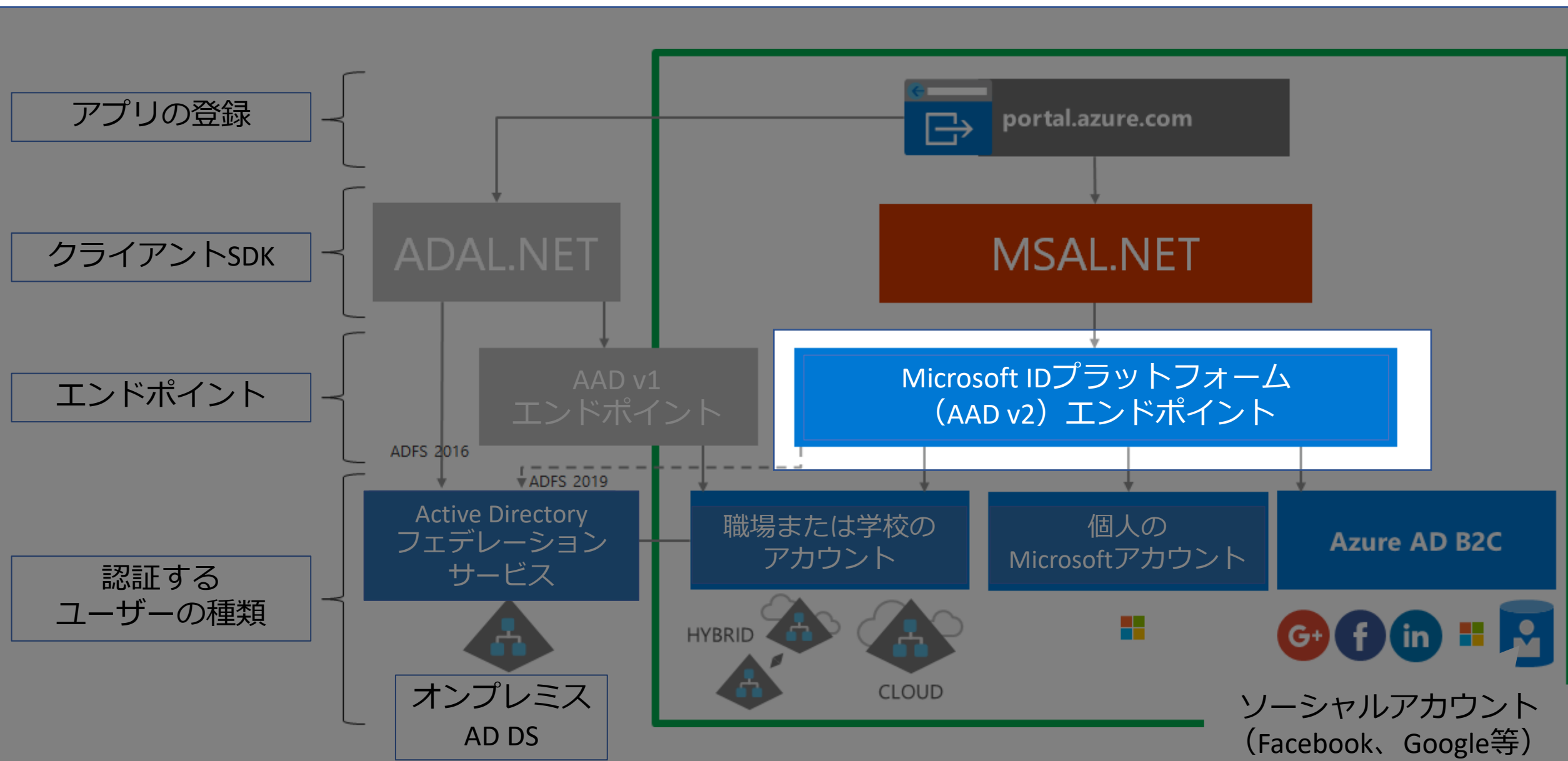
開発者は、 Azure portalを使用して、 認証機能を持たせたいアプリケーションをAzure ADに登録します



アプリに組み込んだMSALというライブラリを介して、ユーザー認証を行うことができます

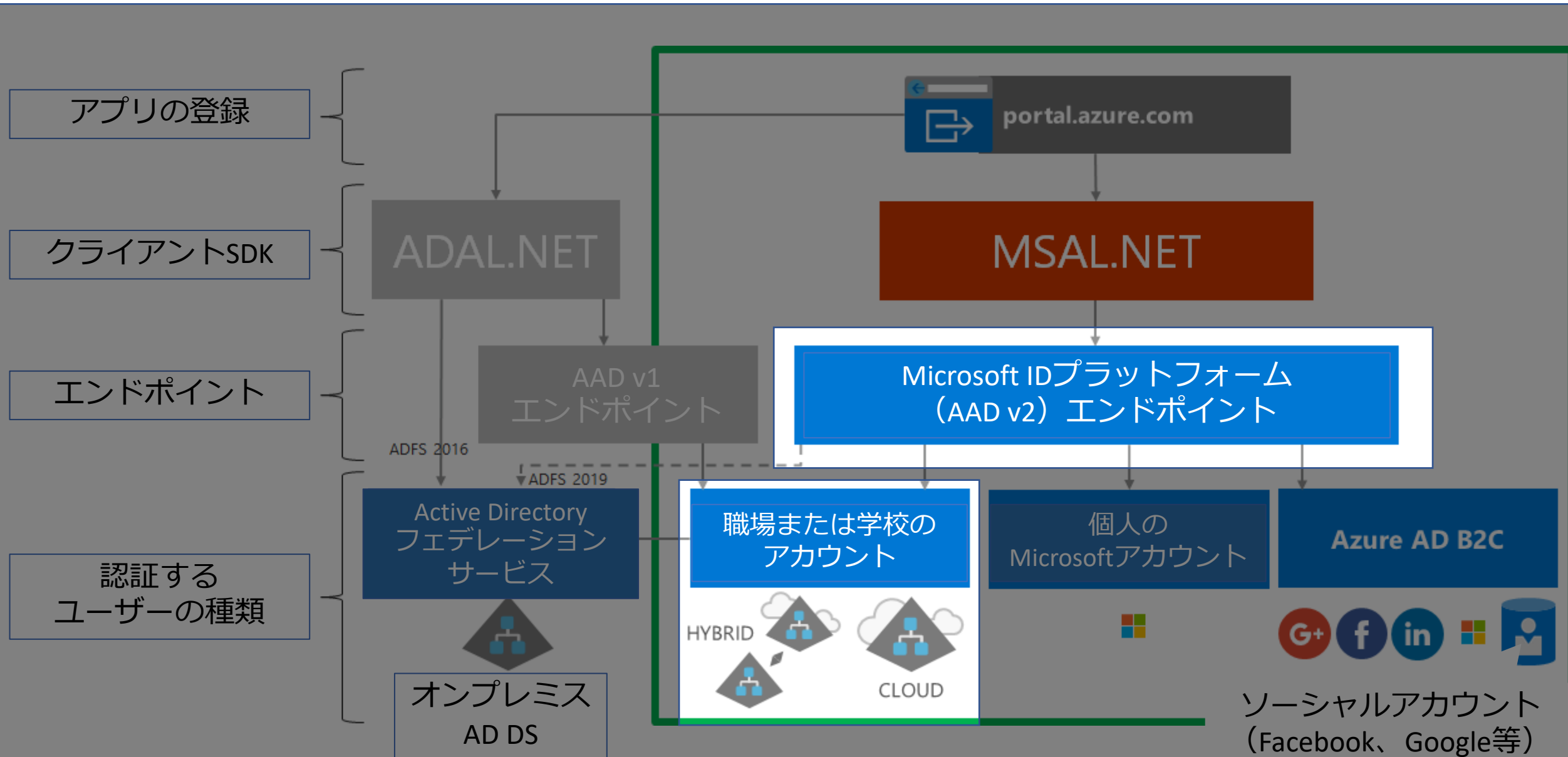


MSALが通信するエンドポイントは、各種のアカウントに対するユーザー認証の窓口となります

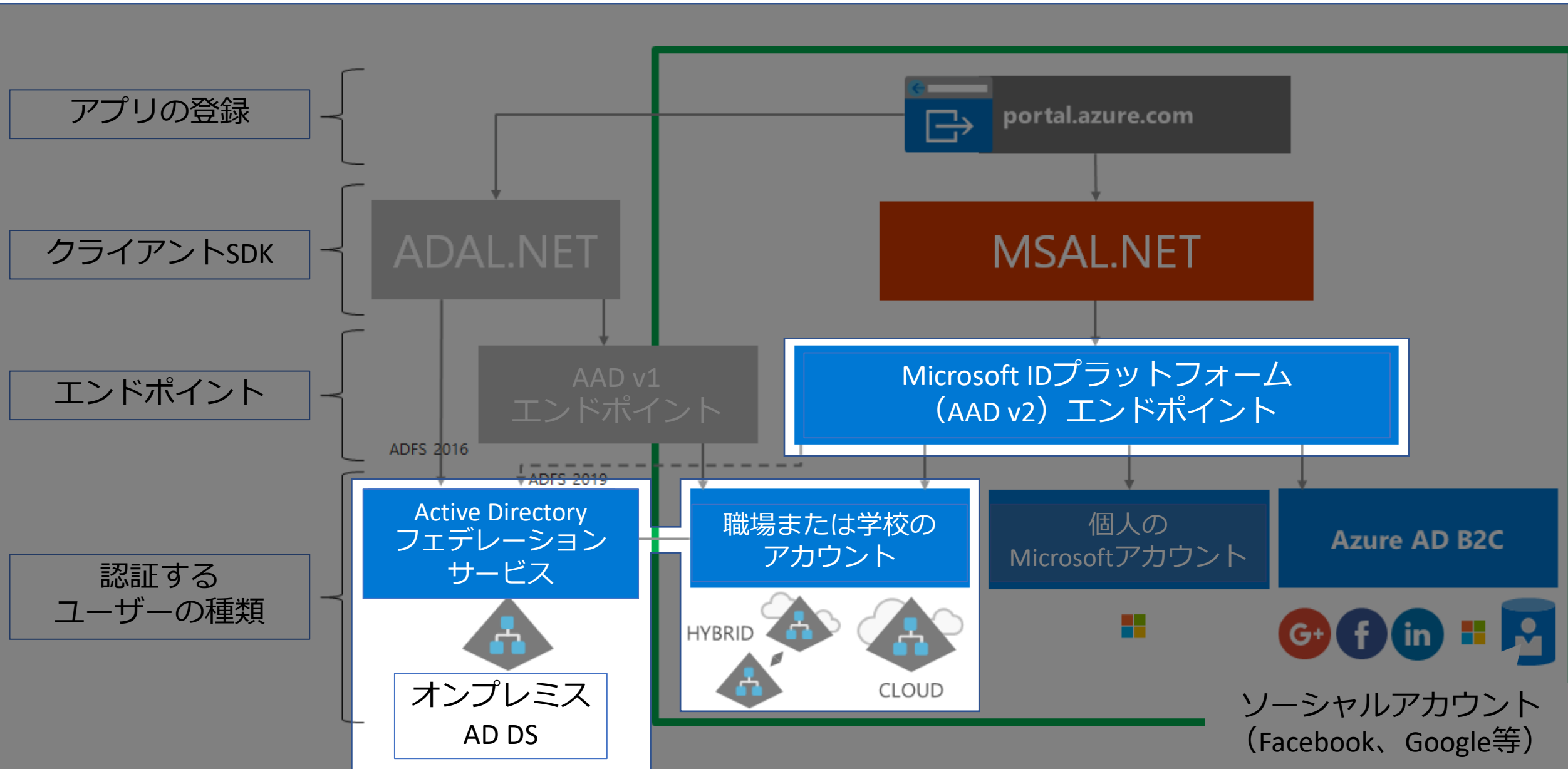




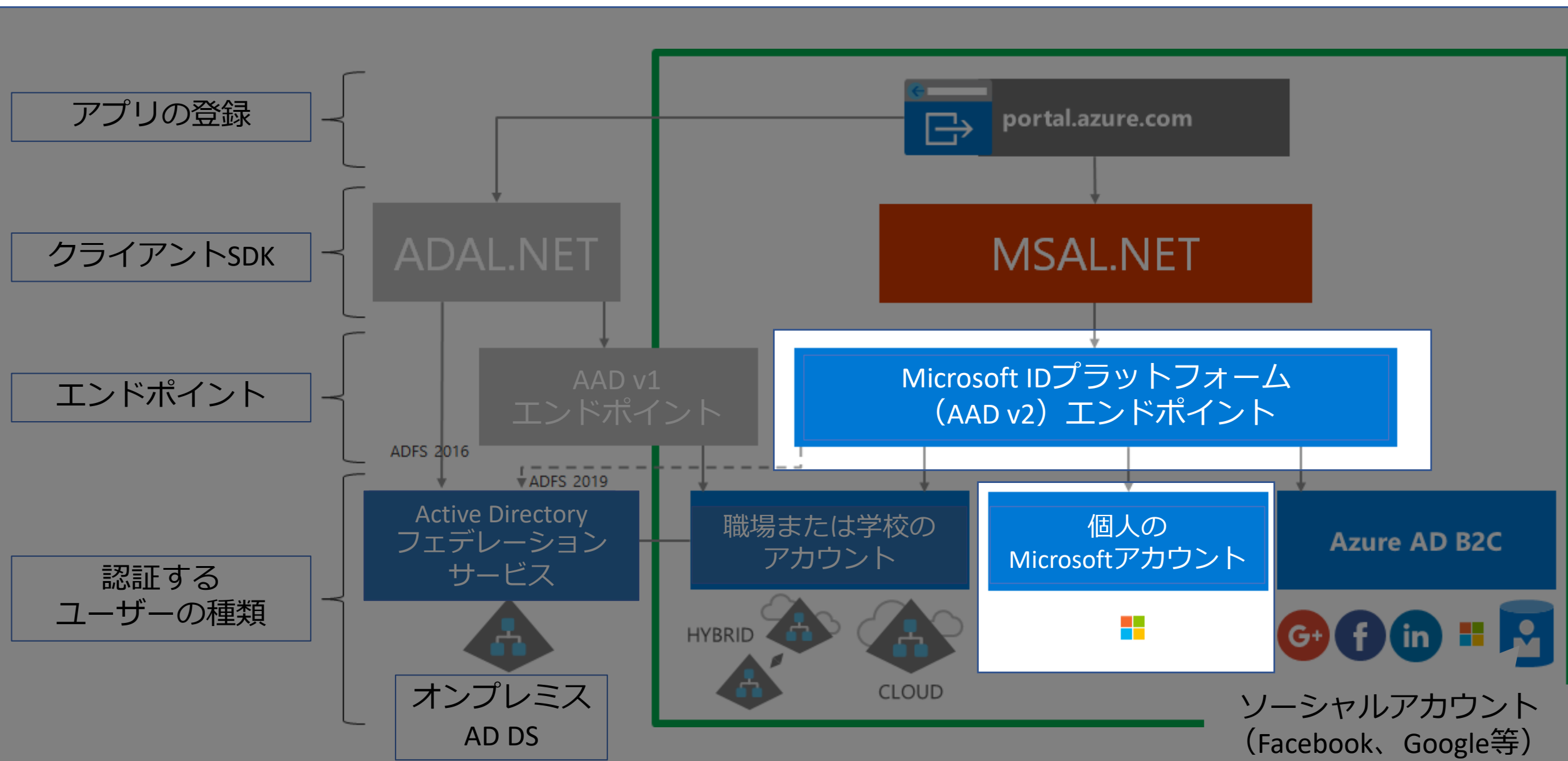
「職場または学校のアカウント」で認証されたユーザーを、アプリにアクセスさせることができます



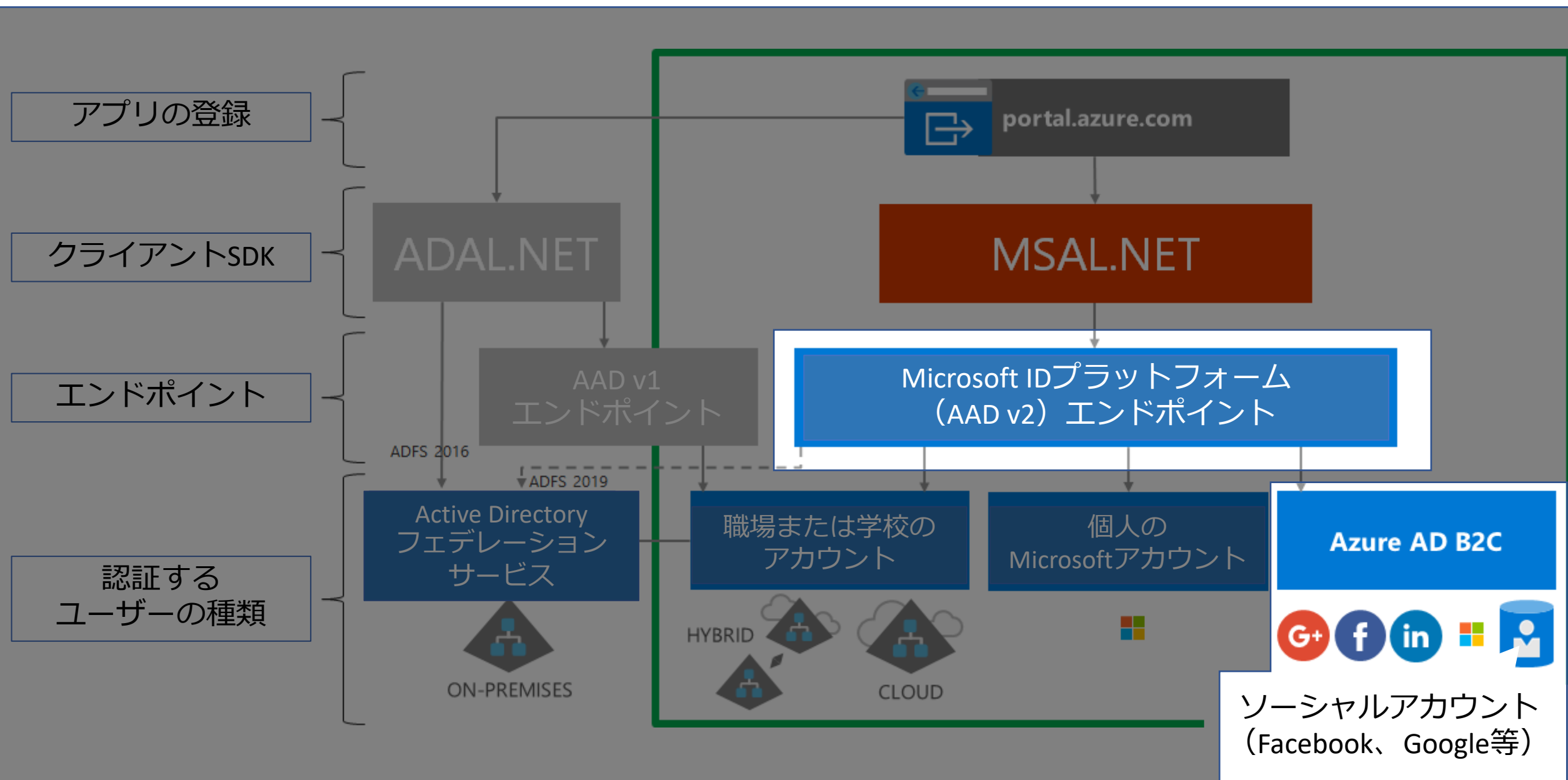
「オンプレミスのAD DSで認証されたユーザー」を、アプリにアクセスさせることができます（AD FSを利用）



個人のMicrosoftアカウントで認証を行ったユーザーを、アプリにアクセスさせることができます



ソーシャルアカウントで認証されたユーザーを、アプリにアクセスさせることができます（Azure AD B2Cを使用）



まとめ：開発者は、アプリに「MSAL」を組み込み、Azure ADにアプリを登録することで、さまざまな方法でユーザー認証を行い、アプリにアクセスさせることができます。

